

派遣先所属 宮城県仙台塩釜港湾事務所
氏 名 伊藤 弘文 (いとう ひろふみ)
派遣期間 平成30年4月1日～平成31年3月31日

1 派遣業務の内容、現況

派遣先の仙台塩釜港湾事務所は県内にある気仙沼、石巻、松島、塩釜、仙台のうち県南側にある仙台、塩釜、松島の三つの港湾を所管しています。港湾のそれぞれの特徴は次のとおりです。

仙台港は、東北の海の玄関口として広域物流拠点の重要な役割を果たしています。コンテナふ頭ではタイヤ等のゴム製品の輸移出、製材の輸移入が行われています。また、カーフェリーふ頭や電気・ガス・石油のエネルギー基地のタンクが立地しています。

塩釜港は、天然の良港であり地域の基幹産業として水産加工業の原材料の輸送拠点になっています。港の周辺には「塩釜魚市場」や「かまぼこの製造工場」などがあります。「マリンゲート塩釜」を発着地点として湾内の島への連絡船や松島観光船が運航されています。

松島港は、日本三景の一つ特別名勝「松島」の玄関口として定期観光船が多数運航されています。松島を訪問する観光客の多くが観光船を利用し、観光拠点港湾としての役割を果たしています。また、港内では、牡蠣の養殖も盛んに行われています。

それぞれに特色のある港は、三陸沖を震源とする地震による20mを超える巨大津波が防波堤や防潮堤を乗り越えたことにより、港湾施設、海岸保全施設、船舶、水産加工場などに壊滅的な被害を受けました。

各施設の鉄筋コンクリート構造物は、流出、崩落、沈下などより機能不全の状態になりました。

担当業務としては、塩釜市・七ヶ浜町・松島町の港湾施設（岸壁・棧橋・船揚げ場・臨港道路）及び海岸保全施設（防潮堤・陸閘）の復旧工事の設計及び工事監督であり、宮城県職員及び東京都の派遣職員と分担して復旧業務にあたっています。

具体的には、担当する工事の設計コンサルタントとの設計条件等の調整、積算、工事の発注、工事監督及び設計変更等の業務です。

復旧工事を進めるために地元漁業協同組合へ工事説明を行い、漁業活動に支障がないよう工事時期の調整を行います。また、地元企業への工事説明や工事への協力要請も行っています。

震災から7年が過ぎ、復旧工事の完成率は確実に大幅に上がってきています。

完成した復旧工事について、各省庁の各種検査が目白押しになっており、通常業務の他に各種検査の受検の調書作成などを宮城県職員と協同して行っています。

今後は、宮城県のプロパーの方から様々なご指導を受けながらさらなるスピード感を持って被災地の復旧・復興業務を進めていきたいと思っています。

防潮堤・棧橋の復旧工事(塩釜港)



2 被災地の復旧・復興の状況

宮城県の地震・津波被災地域においては、震災により被災した防波堤や岸壁・物揚場などの港湾施設は復旧が進捗し、すでに港湾荷役に利用されています。

防潮堤等の海岸保全施設については民間用地に隣接して建設するため所有者との調整や港湾利用者との工程調整を行いながら工事の進捗を図っています。

名勝松島と復旧した胸壁(秋保石の張付け)

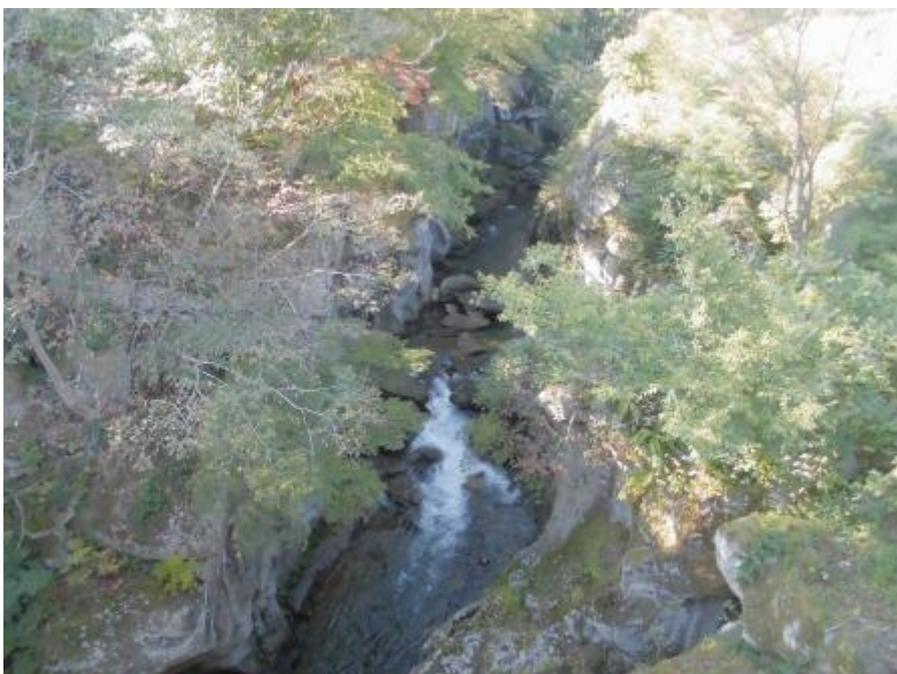


3 被災地へ派遣となって感じたこと

宮城県に派遣となって、週末には時々、源泉かけ流しの温泉巡りをしています。東北には豊かな自然、良質の湯、それぞれ趣のある秘湯の温泉場が至る所にあります。

心身をリフレッシュして、復旧・復興に全力で当たります。

秋保・らいらい峡の紅葉



(平成30年10月作成)